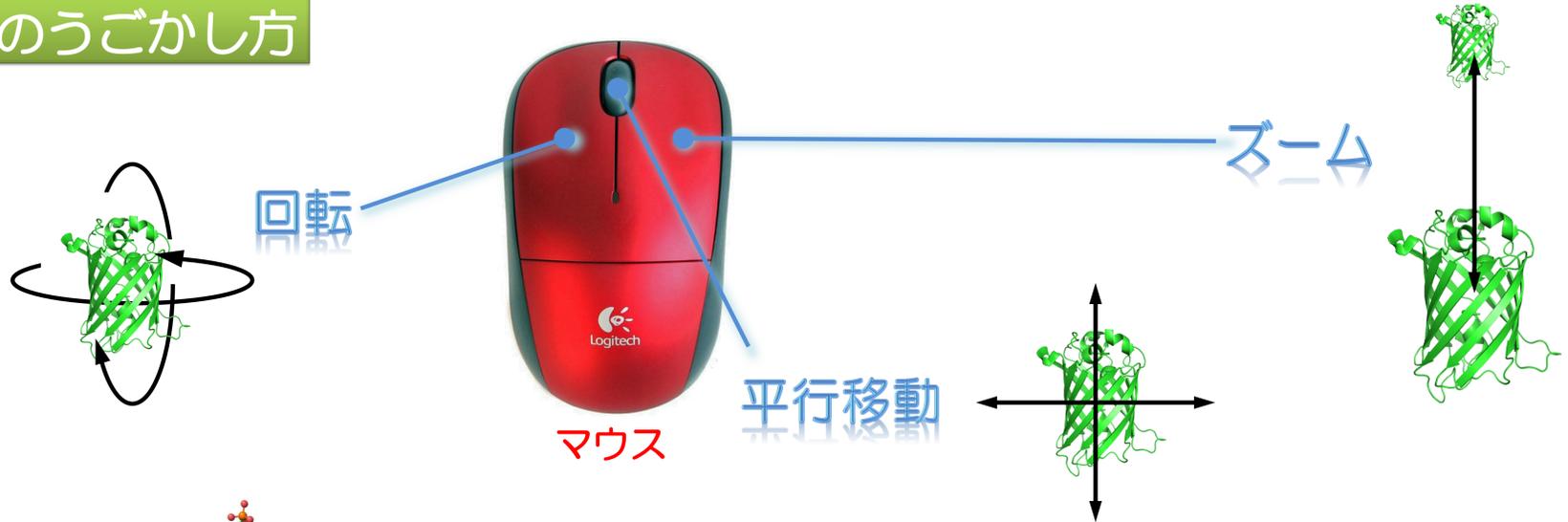


分子をぐるぐるまわしてみよう

分子のうごかし方



でいーえぬえー
DNA

T. thermophilus

生物の遺伝情報（設計図）が書かれている。1953年、ワトソンとクリックによって二重らせん構造があきらかになった。この構造のなかに、どうやって親から子へ遺伝情報がつたわるのかのひみつがかくされている。

ぐるたみんさん
グルタミン酸

T. thermophilus

タンパク質は20種類のアミノ酸が鎖のようにつながってできている。グルタミン酸はそのうちの1つ。1907年に池田菊苗博士により発見された。うま味調味料としてつかわれている。

りょくしょくけいこうたんぱくしつ じーえふびー
緑色蛍光タンパク質 (GFP)

T. thermophilus

オワンクラゲがもつ、光るタンパク質。1960年代に下村脩博士によって発見された。生物学研究になくてもはならないほどやくにたっている。

きのうみちたんぱくしつ
機能未知タンパク質 TTHA0845

T. thermophilus

サーマスのゲノム解析をしたところ、2200の遺伝子のうち、1/3は機能のわからないタンパク質の遺伝子だった。この中には重要なタンパク質がたくさんあると考えられている。

りぼそーむ
リボソーム

T. thermophilus

どんな生物でももっている、細胞の中でタンパク質をつくるやくわりをしているもの。何十種類ものタンパク質とRNAからできている、超巨大分子複合体。2000年、アダ・ヨナット博士によってサーマスのリボソームの立体構造があきらかになった。

とても大きな分子なので、ゆっくりとしかうごかせません